

全国学力・学習状況調査の結果に基づく指導方法等の改善計画

広島市立亀崎中学校

全国学力・学習状況調査 正答率

(〔A：主として知識〕 〔B：主として活用〕)

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
学 校 (%)	73.1	69.0	67.6	52.9	44.7
広島県 (%)	75.3	63.6	62.4	49.8	50.2
全 国 (%)	75.1	63.3	62.1	49.3	51.0

	主な課題	要 因
国 語	①「わかっている」と浅く扱った内容の定着が低い。	○授業での確認不足。
	②大人なら常識と思われることが定着していない。	○実生活で自分に関わらない事への興味・関心が低いのではないか。
	＜課題解決に向けた国語科における具体的実践＞	
	①既習事項についてもその都度確認をしていく。	
	②指導事項のポイントのみならず、一般常識についても定着を図る授業のを工夫する。	

	主な課題	要 因
数 学	①「図形」領域の平均正答率が低い。	○授業における視覚的支援の不足
	②記述問題に対する正答率の向上	○授業における表現(説明)する場面やテストにおける記述形式問題の不足
	＜課題解決に向けた数学科における具体的実践＞	
	①図形領域では、単に立体模型を見せるだけでなく、生徒が操作しながら調べたり考えることが出来るような、工夫した指導を実践する。	
	②授業において自分の考えを发表或し、自分の解き方を説明する場面を多く設定する。またテストにおいて、記述式の問題をより多く出題する。	

	主な課題	要 因
理 科	①基本的な内容の平均正答率が低い。	○宿題プリントによる家庭学習の定着の不足。
	②短答式、記述式の平均正答率が低い。	○授業における記述形式問題の演習不足。
	＜課題解決に向けた理科における具体的実践＞	
	①授業やまとめプリント等により、基本的な内容の定着を図る。	
	②テストやプリントにおいて、記述形式問題の出題を多くする。	

学力向上へ向けた全校的な取組（課題解決に向けた具体的実践）

- ①特別支援教育の視点にたった授業研究を推進する。
- ②ラミネートを用いて、「授業の目標」や「授業の流れ」を明示する。
- ③少人数指導・グループ学習を取り入れ、「教え合う 分かりやすい授業」を創造する。
- ④小中一貫して「板書指導の充実」を図る。